



# 続編ファンドの提案 ～消費者を投資家にーコンテンツ産業成長の糸口～

慶應義塾大学法学部

渡辺美智隆

清水 勇作



# 発表の流れ ~Outline~

- I. コンテンツ業界とそれを取り巻く現状
- II. 続編ファンドの提案
- III. 続編ファンドの発展性
- IV. 総括

# 日本のコンテンツ産業の光と闇

コンテンツは日本が世界に誇る産業である

しかし

日本のコンテンツ市場成長率はわずか年**0.7%**  
(2001年から2005年までの平均値)

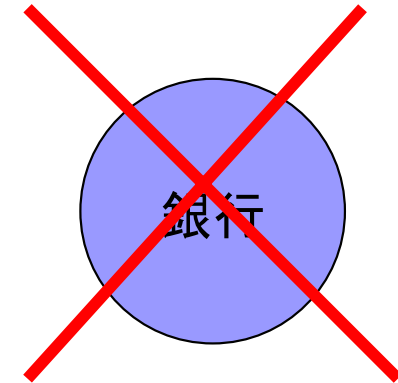
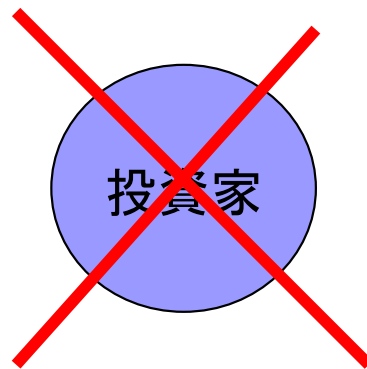
主因

(参考) 世界5.8%  
アメリカ5.6%

コンテンツ業界の資金構造

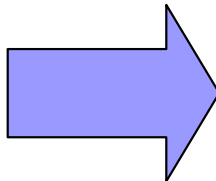
# コンテンツ業界の資金構造

製作者に対して、  
出資者が極めて少数



その結果

- ・製作者に対して圧倒的に寡占的な流通業者
- ・製作者は下請け的な役割



製作者に資金が行き渡らない現状

(メモ)

製作者に資金がいき  
わたらない業界構造

# 銀行預金の多い一般個人

「貯蓄から投資へ」と言われているが・・・、

・いまだ**723兆円**が預金

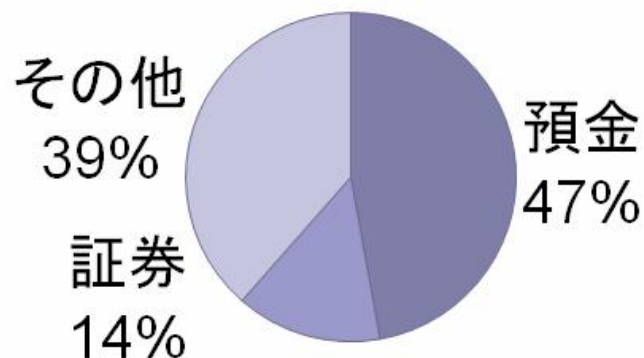
株式投資について

「現在行っていないし、今後行うつもりがない」

**68.5%**

(2006年2月内閣府世論調査)

## 個人の金融資産(1541兆円) の内容

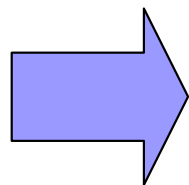
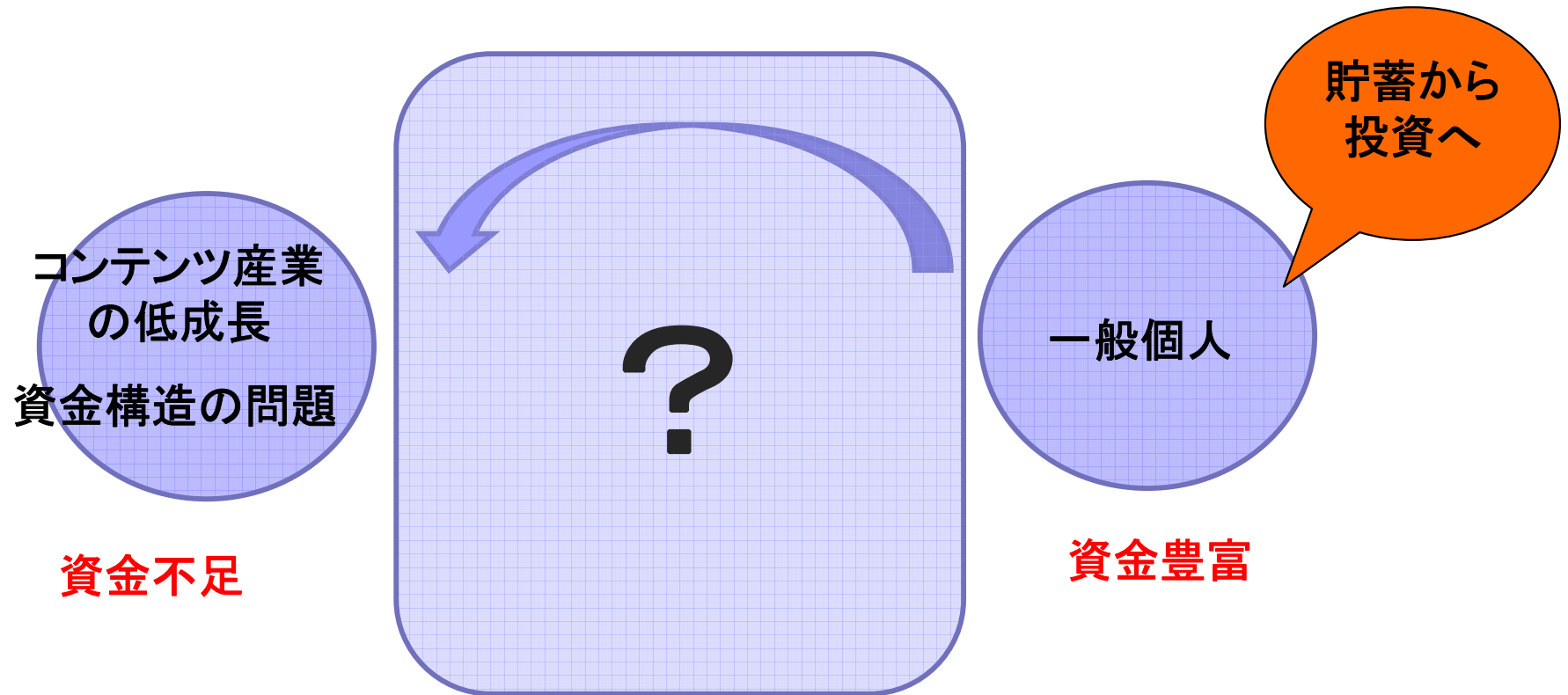


資金循環統計(2006年度末)より

投資に親しみが無い

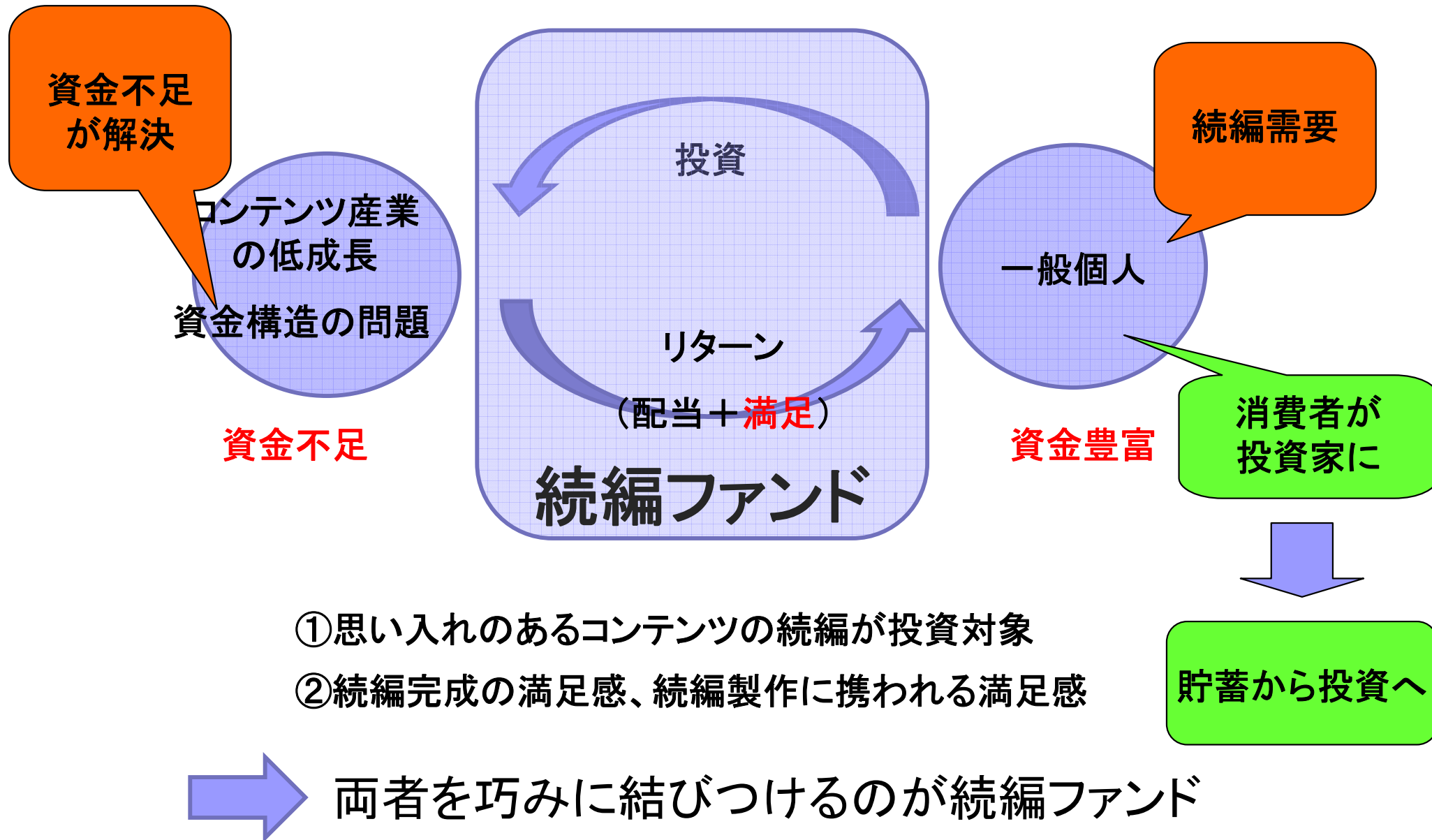
**積みり積もる銀行預金**

# 問題とその解決方法



両者をうまく結び付けられないだろうか？

# 続編ファンドの提案



# 続編ファンドがもたらすメリット

	短期的メリット	中・長期的メリット
投資家 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"><li>・金銭的リターン</li><li>・自分が望む続編が見られる、その製作に参加できる満足感(これまでの金融商品にはない)</li><li>・投資を勉強する良いきっかけ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・効率的な資産の運用</li><li>・ファイナンシャルリテラシーの向上</li></ul>
コンテンツ 製作者	<ul style="list-style-type: none"><li>・資金提供者数が増えることで、選択の余地が広がる</li><li>・買い叩かれる現状からの脱却</li><li>・インセンティブ増大(Ex.ストックオプションの導入など)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・流入資金の増大によって、産業全体が活性化</li><li>・インセンティブ増大によって、人材が集まり、育ちやすくなる</li></ul>



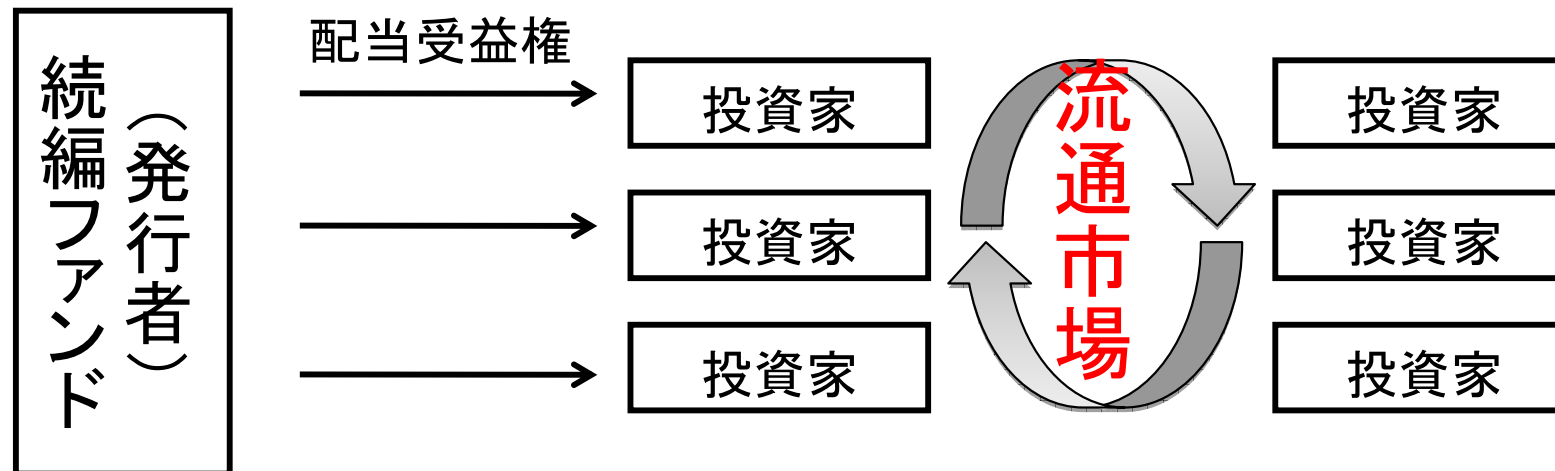
相互補完的な関係が実現



# 流通市場創設へ

## 流通市場とは？

・・・発行者と投資家ではなく、投資家同士が取引する場



 投資家同士が取引する場を作ろう！

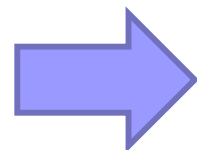
# 二つの大きな目的

業界サイド

流入資金の増大

投資家サイド

流動性の確保



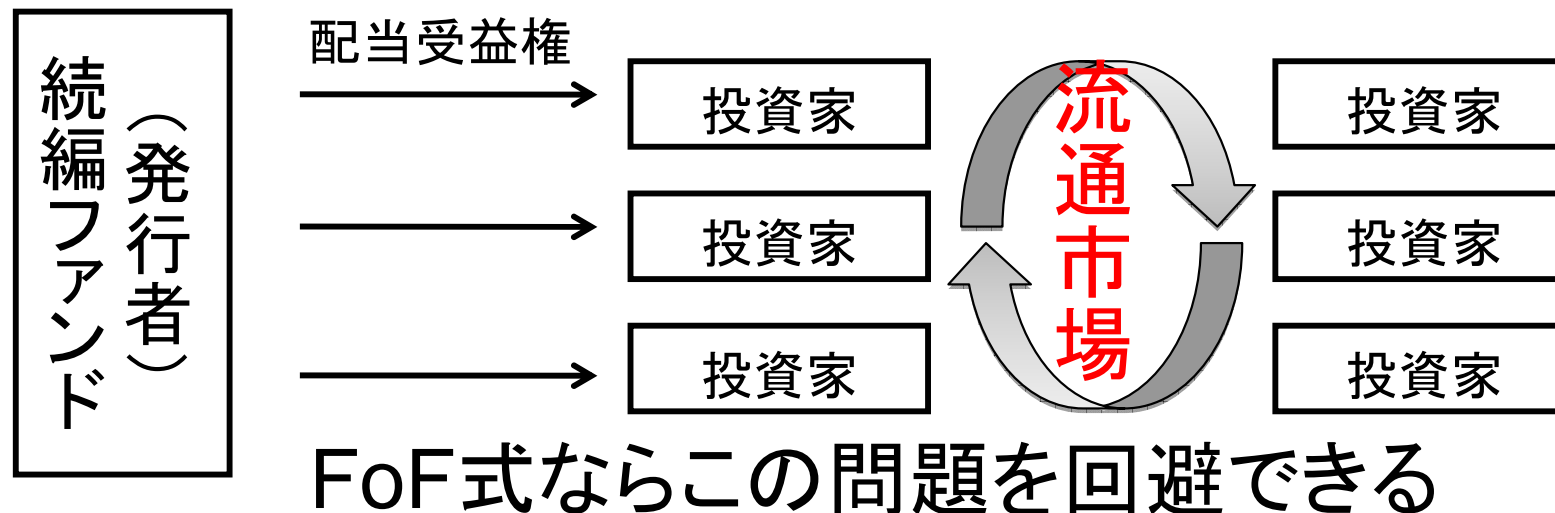
双方にメリットが生じる

# FoF式での上場の提案

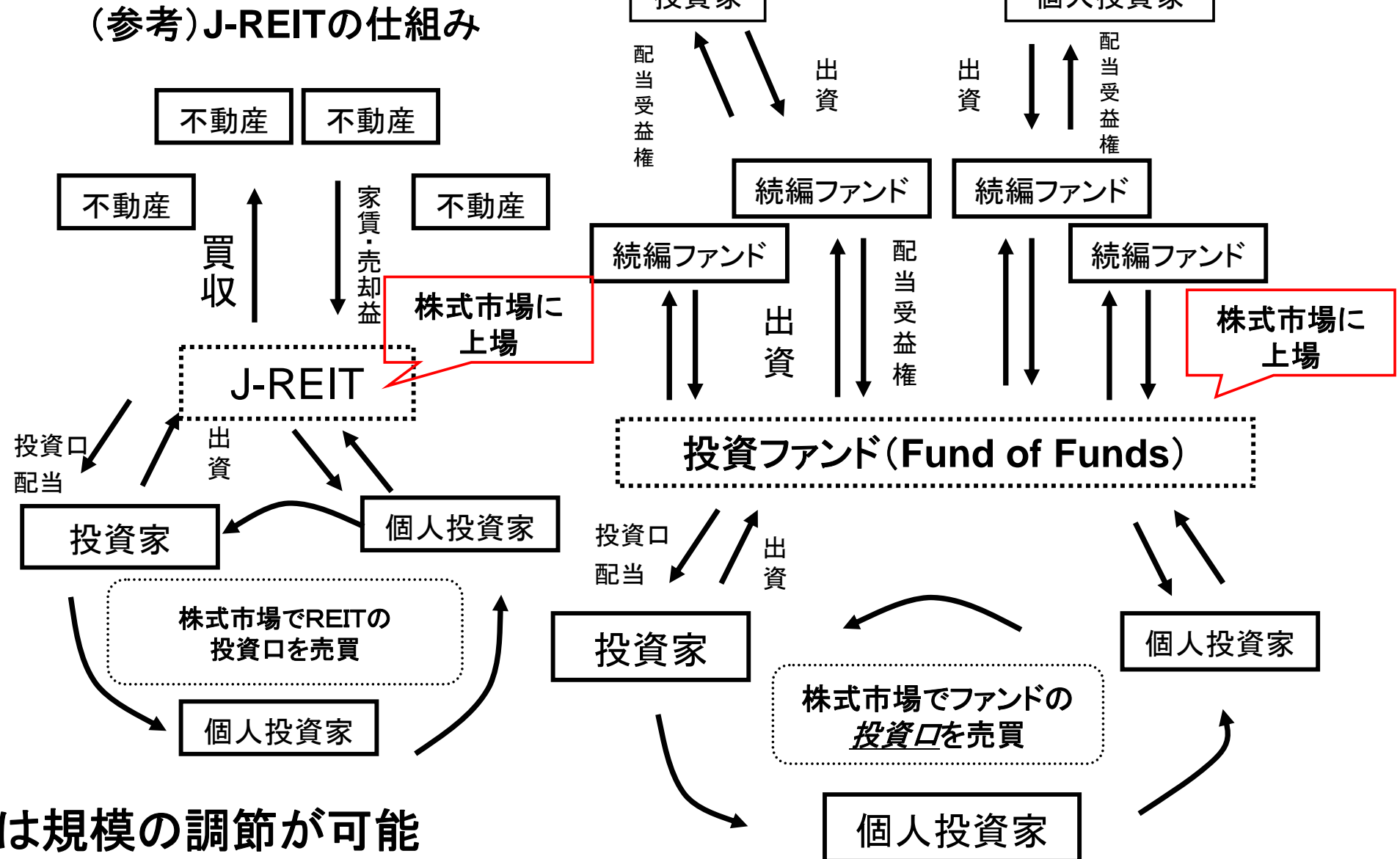
## ■ FoF式の上場とは？

- …複数の続編ファンドに投資する投資ファンド(Fund of Funds)が株式市場に上場し、投資家はその株式を売買する方法

直接配当受益権を取引する場合→流動性が確保できない  
原因 ①個々の続編ファンドが小規模  
②配当受益権は償還される(Buy&Holdが基本)



## FoF式コンテンツファンドの仕組み



- ・FoFは規模の調節が可能
- ・FoFの配当は継続的に行われる

# FoF式上場のメリット

## コンテンツ業界サイドのメリット

### 資金流入量の増大

コンテンツ投資の知名度アップ

海外からの投資の受け皿

## 個人投資家サイドのメリット

### 流動性のあるコンテンツ投資が可能

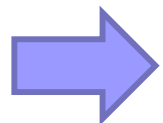
アクセスが非常に用意

効率の良いリターン

## 高い発展性

指数化によるコンテンツ成長の視覚化

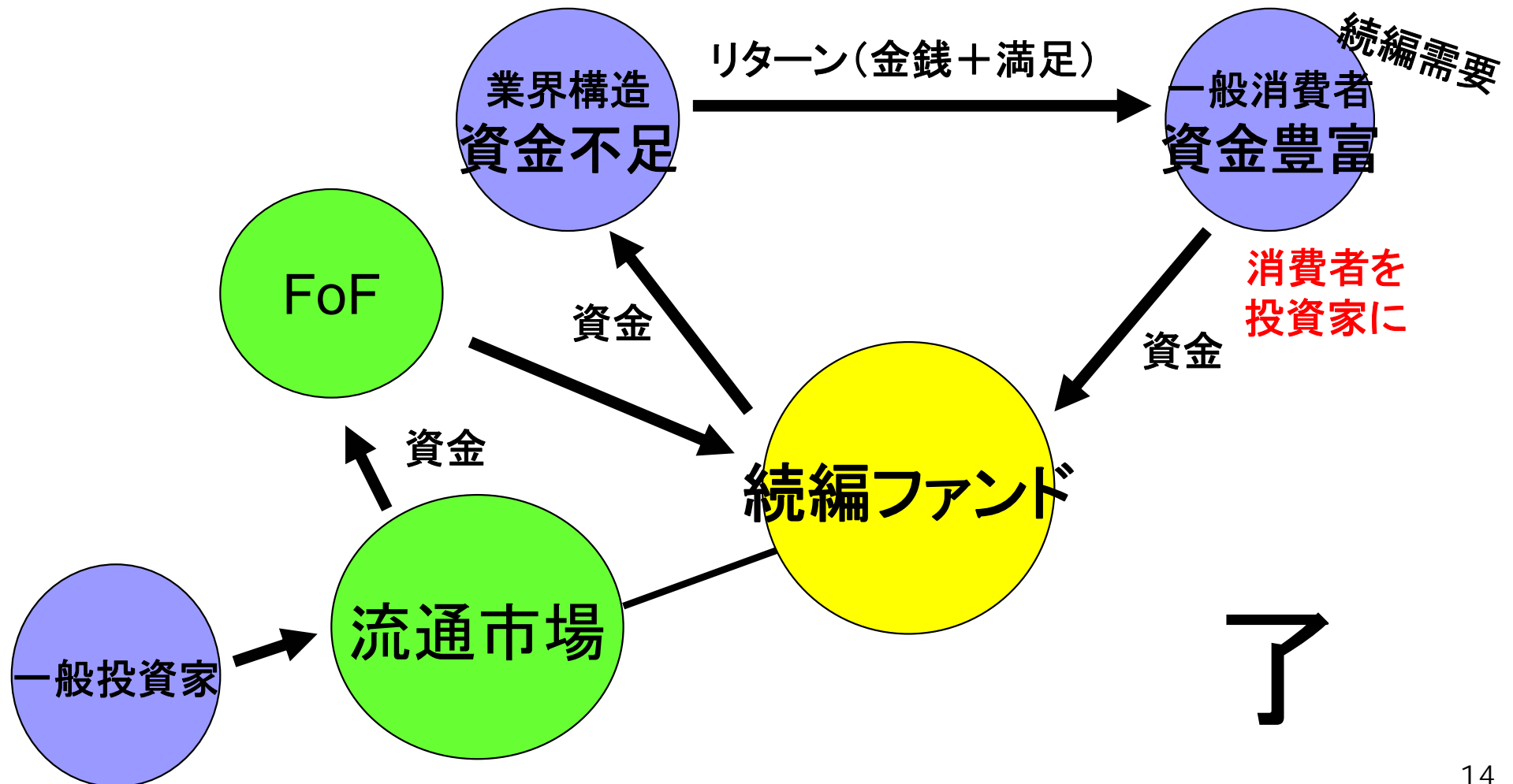
コンテンツ指数の取引可能性



2つの目的以外にも独自のメリットが多々存在する

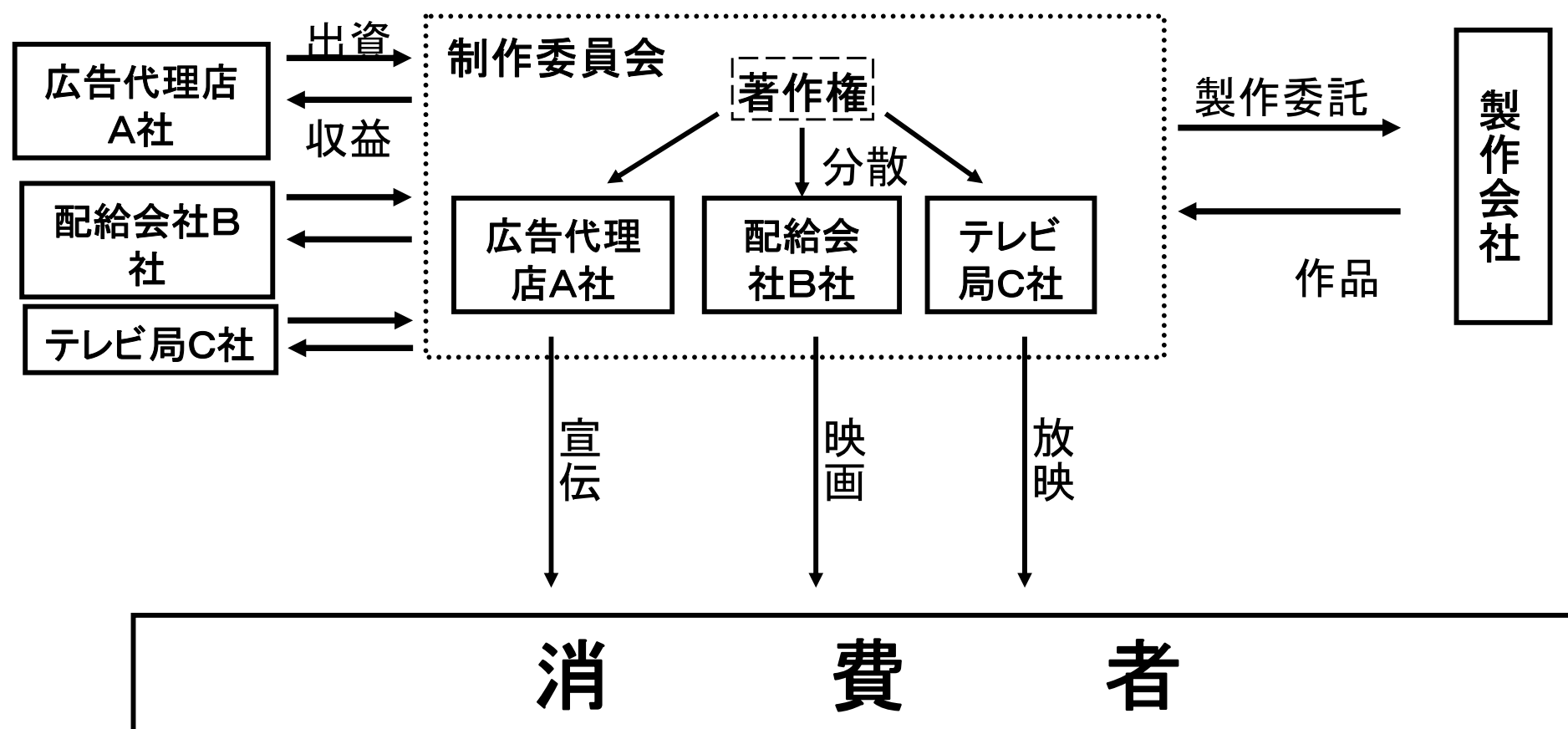
# 総括

日本の誇るコンテンツ産業 → 実は低成長

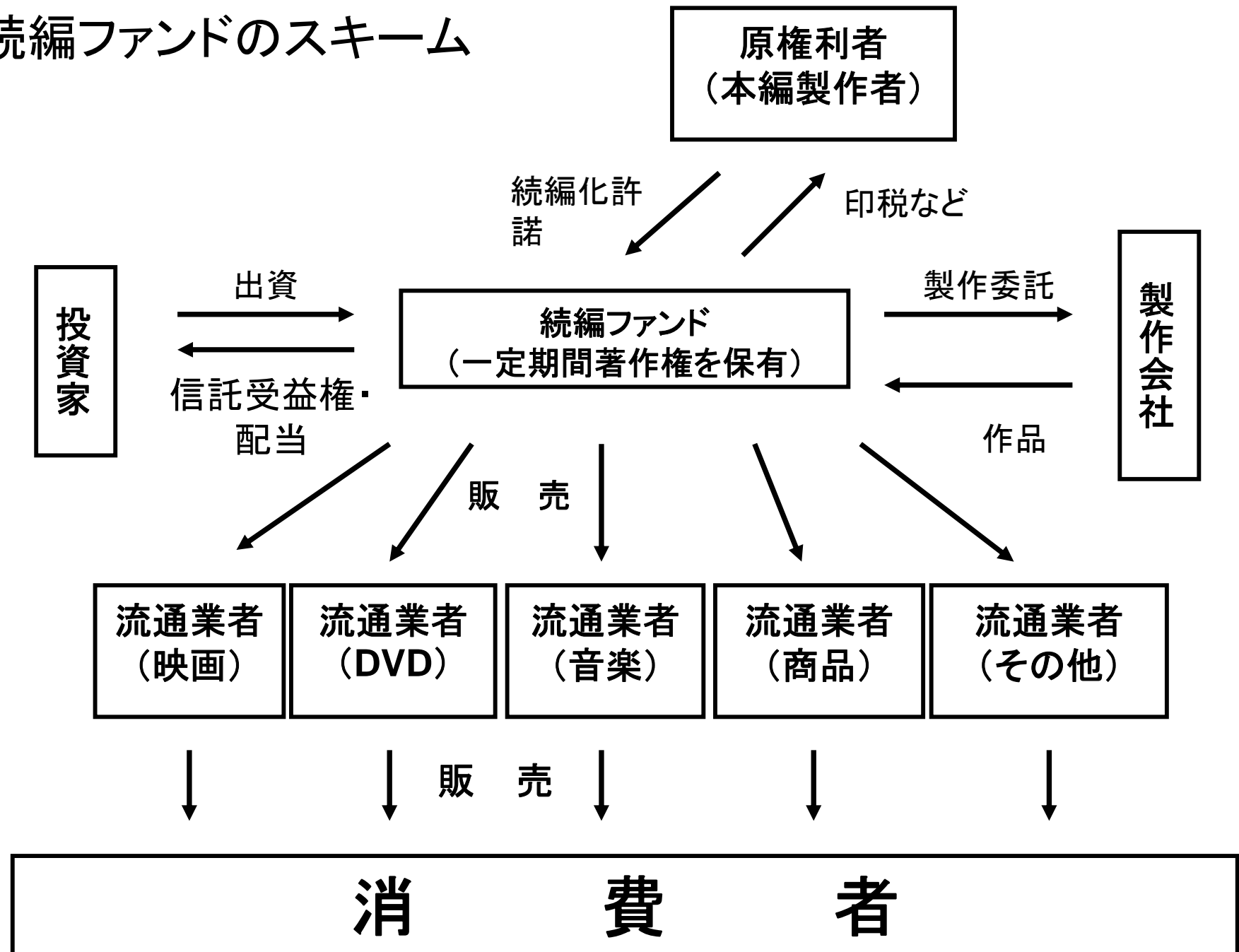


(参考)

図ー1 制作委員会方式のスキーム

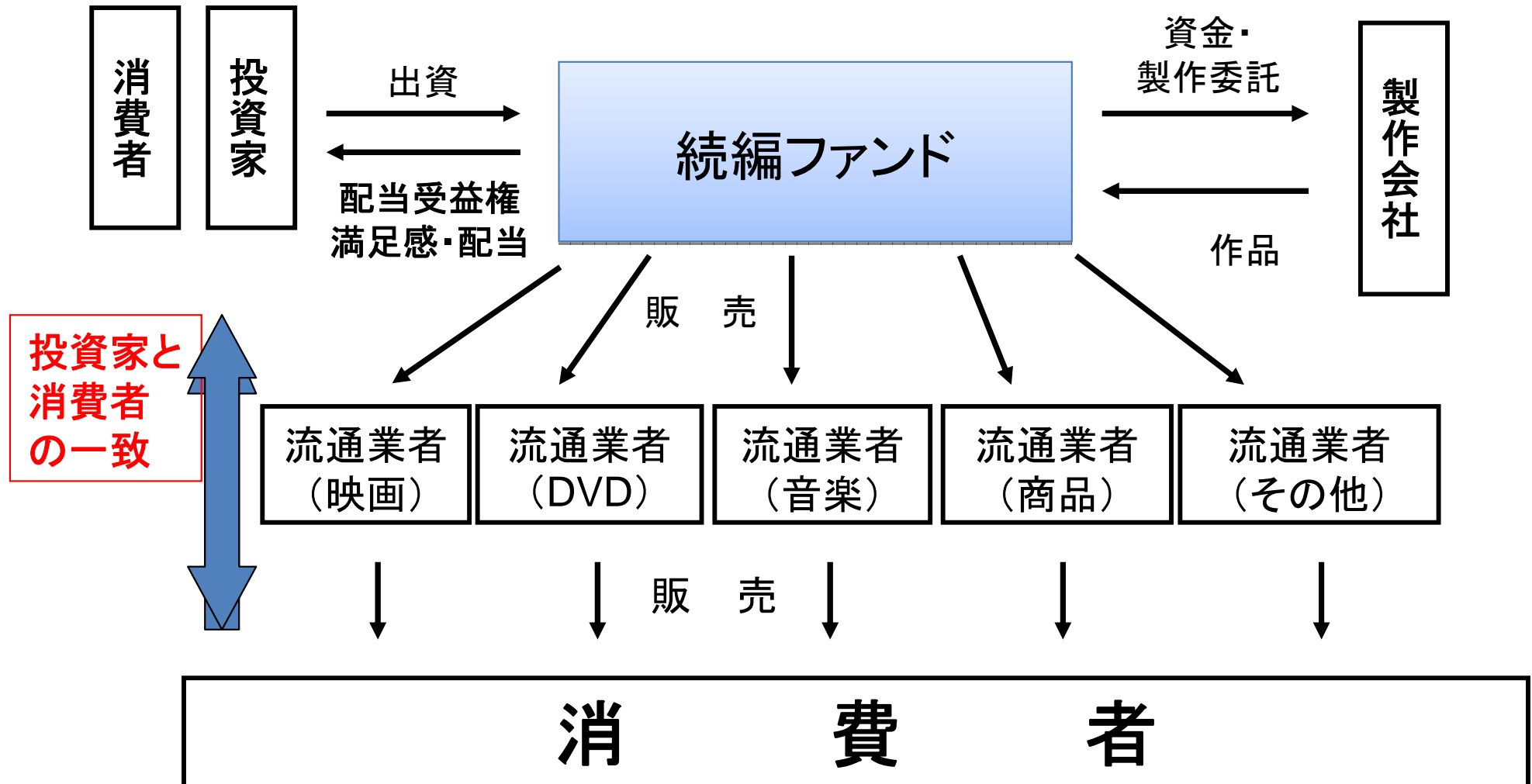


# 続編ファンドのスキーム





# 続編ファンドのスキーム



# リスクについて

- ・完成リスク

- ①続編であること自体がヘッジ
- ②投資単元を切り下げる、選べるリスク
- ③完成保証

- ・運用リスク

信託方式をとることで倒産隔離

# 映画2006年興行収入上位(邦画)

- ゲド戦記
- LIMIT OF LOVE 海猿
- THE 有頂天ホテル
- デスノート the Last name
- 日本沈没
- 男たちの大和
- ポケットモンスター アドバンスジェネレーション
- ドラえもん のび太の恐竜2006